

第79回つデイ

津が生んだ“昭和の光悦”

かわき た は ん で い し

川喜田半泥子

せきすいはくぶつかん せんかくがま とうようけん
一石水博物館・仙鶴窯・東洋軒一



つ デ イ
令和7年(2025)2月14日・15日の2days

14日(金) 13:00~20:00

15日(土) 10:00~16:00

会場:三重テラス2階

(東京都中央区日本橋室町2-4-1 YUITO ANNEX)

アクセス:東京メトロ銀座線「三越前」駅直結

協賛:株式会社百五銀行

川喜田半泥子を通して津の魅力を発信！

三重県津市の川喜田久太夫家は、伊勢国津を本拠としながら江戸時代初期より江戸日本橋近くの大伝馬町一丁目で木綿問屋を営んでいた「江戸店持ちの伊勢商人」でした。その十六代目当主でもあった川喜田半泥子（1878～1963）は、津市に本店を置く百五銀行の第六代頭取を務めるなど財界で活躍した一方、茶陶を中心に制作した趣味の陶芸家としても知られています。

半泥子の邸宅があった津市垂水の千歳山に佇む石水博物館は、「半泥子が自らお客様を迎えるゲストハウス」をコンセプトとして2011年に移転開館し、以来常に半泥子の作品を展示し、国内外から多くの半泥子ファン、陶芸ファンをお迎えしています。

このたびは、川喜田家ゆかりの地でもある「東京日本橋」で、半泥子作品とパネル展示、石水博物館学芸員によるギャラリートーク、また半泥子が開いた廣永窯（現仙鶴窯）の製品の紹介や半泥子が愛した東洋軒のブラックカレーの試食販売などを実施し、東京の皆様にも半泥子を通して津の魅力を多角的に発信します。

◆ 会場構成

1. 半泥子と石水博物館とその周辺を紹介するパネル展示
2. 川喜田半泥子の作品展示
3. 半泥子が開いた廣永窯の精神を受け継ぐ「仙鶴窯」の陶芸作品の展示販売
4. 半泥子が愛した津の洋食の老舗「東洋軒」のブラックカレーの試食と販売

◆ 関連イベント

石水博物館学芸員によるギャラリートーク

14日（金）：14時～、16時～、18時～（各回30分程度）

15日（土）：11時～、13時～、15時～（各回30分程度）

※ギャラリートークの時間帯にあわせブラックカレーの試食（各回30名様、整理券配布）



特別協力：株式会社ちとせ ギャラリー仙鶴
株式会社東洋軒



お問い合わせ

公益財団法人石水博物館

〒514-0821 津市垂水 3032 番地 18

☎:059-227-5677 / FAX:059-213-5789

<https://sekisui-museum.or.jp/>